

## 「地域の宝、発見！プロジェクト」で島根の図書館を元気にする

倉橋千絵

島根県立図書館

### 1.はじめに

「うちの図書館の利用者層を見ると、ビジネス支援とは縁がないと感じる。」ある市町村図書館を訪問した際に言われた言葉である。当時は何も返す言葉が見つからなかったが、BL講習会を終えた今なら、「それでも一緒にビジネス支援をやってみませんか。」と前向きな言葉を返すことができる。それは、第23回ビジネスライブラリアン講習会（以下、BL講習会）を通して、ビジネス支援のニーズは自治体の規模に関わらず存在すること、図書館の大小に関わらずビジネス支援に取り組めることを学んだからである。

本レポートでは、BL講習会で得たものを基礎として、当館のビジネス支援サービスの見直しを図り、市町村図書館支援の視点をもって地域経済の活性化につながる取り組みを提案したい。

### 2.島根県立図書館のビジネス支援サービスの現状と今後の方向性

#### 2.1 島根県立図書館のビジネス支援サービス

当館のビジネス・就業支援コーナーは平成17年（2005年）に設置された。地域経済の発展に貢献できるよう、産業支援機関と連携を図りながら、相談会の実施や情報提供、レファレンスなどのサービスを進めていくことを方針としている。以下は主な取り組みの内容である。

- ① ビジネス・就業支援コーナーを拠点とした情報提供を積極的に行う
- ② ビジネスに関するレファレンスを積み重ね、事例を館内やホームページで提供する
- ③ ビジネスライブラリアン講習会へ参加し、職員の資質向上を図る
- ④ しまね産業振興財団のよろず支援拠点が主催するビジネス相談会を、司書が同席して当館で開催し、その実際的な知識や技巧に接するとともに、相談に適した資料提供を行う
- ⑤ 上記ビジネス相談会で得た経験と蓄積をもとに、他の産業支援機関と連携を図る
- ⑥ 産業支援機関と連携したセミナーや講演会を開催するとともに、テーマに関する資料リストの作成・提供を行うなど、図書館の利活用を促す

「人づくり、地域づくりに資する知の拠点を目指して一島根県立図書館 運営方針及び活動計画一」（平成31年3月）より

これまでに3名がBL講習会を受講しており、ビジネス支援に役立つ資料の収集やオンラインデータベースの導入を進めてきた。令和3年（2021年）からは、上記の取り組みに加えて日本政策金融公庫と連携した高校生向けのビジネスプラン作成講座を開催している。BL講習会

を受講したことで、全国的なビジネス支援サービスの動きや、その流れのなかで当館のサービスが積み重ねられてきたことを実感を持って理解することができた。

その一方で、令和5年（2023年）に実施した利用者アンケート調査の結果からは、図書館がビジネス支援を行うイメージが、一般の利用者に定着していないことが伺える。このアンケートで「今後重視すべきサービスの方向性」を聞いたところ、「ビジネス就業支援などの各種課題解決サービス」を選んだ人は122名中わずか6名であり、項目の中で一番低い数値であった（表1を参照）。ビジネス支援サービスそのものの認知度を高めていくため、ホームページやSNSを活用して、ビジネス支援サービスの周知を図っていきたい。

表1 島根県立図書館運営方針及び活動計画（第2次）<sup>i</sup>より

重視すべきサービスの方向性（3つまで回答可）	回答数	回答率
島根県に関する資料や情報の収集・保存・提供	58	47.5%
県内図書館の中核となる図書、雑誌、新聞などの資料保存機能	53	43.4%
市町村図書館、公民館図書室、学校図書館への支援	50	41.0%
直接来館が困難な遠隔地に住む利用者へのサービス	28	23.0%
調査・相談などのレファレンスサービス	26	21.3%
絵本・児童書の収集や子どもの読書活動の推進、啓発	26	21.3%
高齢者、障がい者、外国人など多様な方へのサービス	24	19.7%
特になし（未選択）	13	10.7%
その他（私立も含めた学校図書館支援 など）	7	5.7%
ビジネス就業支援などの各種課題解決サービス	6	4.9%
回答対象者数	122	

## 2.2 今後のビジネス支援サービスの方向性

当館の方針のなかでは、ビジネス支援の対象者について具体的に記していないが、今後のサービスを考えるために改めて確認する。参考に平成17年（2005年）の報告「地域の情報ハブとしての図書館（課題解決型の図書館を目指して）」<sup>ii</sup>を確認すると、ビジネス支援の対象者を以下のように想定している。

「ビジネス活動や研究活動に従事する会社や団体に所属している勤労者だけではなく、むしろ、地域コミュニティを支える商工会や町内会を始め、地域において起業・創業を狙う学生や主婦から、事業展開・事業再構築に悩む中小企業経営者や個人商店の事業主まで幅広い層を対象とするものである。」

このことを踏まえると、ビジネス支援の対象者は実に幅広く、幅広い層にアプローチするためには、各講師からのアドバイスにもあった通り、外部機関との連携が必要不可欠となる。図

書館の外に出て各種イベントに参加し、普段図書館を利用する機会のない人にもアピールしていく鳥取県立図書館の取り組み<sup>iii</sup>や、広島市立中央図書館の産業支援機関や図書館などの関係者に向けた講演会の開催<sup>iv</sup>などの先行事例を参考にして、産業支援機関や専門機関との協力関係を築いていきたい。また、県民全体へのサービスを考えると、市町村図書館にもビジネス支援サービスの裾野を広げていく必要がある。今回のレポートでは、このことについて具体的に考えていく。

### 3.市町村図書館支援の観点から考えるビジネス支援サービス

当館では、市町村図書館への巡回訪問や地域図書館職員研修を実施している。各図書館を訪問し、実際にそこで働く職員の方と言葉を交わすことで見えてくる課題もあり、各館の図書館運営のなかには学びがたくさんある。今後も市町村図書館職員の声を直接聞く機会を大切にしたい。BL講習会では、紫波町図書館の手塚講師による実践事例<sup>v</sup>のなかで、町の課題に対して「目的に応じた手段」を取ることにあった。ここでは、市町村図書館のビジネス支援サービスにおける課題に対して、県立図書館として今あるつながりを活かした具体的な手立てを考えていく。

#### 3.1市町村図書館に向けたビジネス支援サービスに関する情報発信

一つ目の課題として、市町村図書館には、ビジネス・レファレンスに対応できる資料が十分でないことが懸念される。BL講習会の中で、業界動向を調べる上で有用な資料として紹介された『業種別審査事典』（金融財政事情研究会）や『業種別業界情報』（経営情報出版社）について、県内に最新版を所蔵している市町村図書館はなかった（2024年2月末現在）。しかし、余野講師の講義<sup>vi</sup>にあったように、自館に所蔵はなくとも有用な資料の存在を知っていて、県内にそれらの資料を備えている図書館があることを知っていればレファレンスの対応は変わる。そこで、市町村図書館に向けて、ビジネス・レファレンスに役立つ資料のブックリストを配布し、レファレンスの研修の中でビジネス・レファレンスについて触れるなど、具体的に資料を紹介することで、その後の連携に繋がりたい。

#### 3.2オンラインでビジネス・レファレンスの連携支援体制を構築

二つ目の課題は、県内ではビジネス・レファレンスを学ぶ機会が少なく、対応に不安を持っていることである。筆者自身も同様の不安を抱えていたが、BL講習会を受講することで、調査のプロセスはその他のレファレンスと変わらず、基本となる資料にあたっていくことが重要であることがわかり安心した。加えて、有用な資料やデータベース、専門図書館についての情報、実際のレファレンス事例やそのときの対応について具体的に教えていただいた。これらの学びを市町村図書館の職員にも伝えていきたい。

そこで、竹内会長から提案<sup>vii</sup>のあったように、県立図書館の職員がオンラインでビジネス・

レファレンスを受ける体制を構築することを検討していきたい。コロナ禍で、県立図書館が主催する研修をオンライン会議で行うことも増えた。東西に長く離島のある県土を持つ島根県では引き続きオンラインの対応が求められており、この仕組みを活用したい。

初年度は、市町村図書館の職員と県立図書館のレファレンス担当職員がオンラインでレファレンス全般についての情報交換を行う機会を1回ずつ設ける。担当者と顔見知りになり、気軽に情報交換できる関係を築きたい。次年度以降は、引き続きレファレンスに関する相談をオンラインで受ける機会を設ける。さらに、希望する市町村図書館にビジネス相談会のチラシを設置し、利用者からの問い合わせに応じて日程調整を行ったうえで、相談会を実施する。市町村図書館職員も同席することで、資料の貸借や複写の手続きがスムーズになるとともに、レファレンスのやり取りなど実地を見てもらうことができる。

以上のように、県立図書館のサービスを充実させていくとともに、市町村図書館と連携し、ビジネス支援サービスの輪を県内に広げていきたい。

#### 4.地域ビジネスの芽をはぐくむ取り組み

2.2で取り上げた報告「地域の情報ハブとしての図書館（課題解決型の図書館を目指して）」では、公共図書館の役割を以下のように記している。

「公共図書館は年齢・性別、目的等を問わず多種多様な住民の来館を受け入れるとともに、このように幅広い分野の情報をネットワーク化し、提供することによって、地域ビジネスの芽をはぐくむこととなる。これにより、公共図書館が、地域における自立した個人の育成や、地域経済の発展に貢献することが期待される。」

“地域ビジネスの芽をはぐくむ”取り組みとして、日頃のレファレンスの積み重ねはもちろんのこと、他に何かできることはないかと考えた。ここでは、「地域の宝、発見！プロジェクト」と題して、ウィキペディアタウン開催支援事業を提案する。

##### 4.1 「地域の宝、発見！」ウィキペディアタウン開催支援事業の提案

ウィキペディアタウンは、日本では共同でウィキペディアを編集するイベント「エディタソン」を、地域をテーマに開催することを指し、街歩きイベントとして開催される場合も多い<sup>viii</sup>。

ウィキペディアタウンを提案する理由の一つとして、レファレンス業務で地域の産業に関わる問い合わせを受けるたび、新たな発見があり、筆者自身がそれらの情報に価値を感じることがある。例えば、農業の分野で「出雲地域でサトウキビを栽培していた記録はないか」という問い合わせがあった。調べてみると、わずかではあるがサトウキビを栽培していた農家があったことを示す統計資料と、サトウキビを栽培していた人物の記録が見つかった。依頼者はサトウキビ栽培を復活させる取り組みに関わっていて、サトウキビを活用した商品は新たな特産品として地元のテレビ番組で取り上げられ、その際には図書館の資料も紹介され

た。この事例は、文献やデータによる裏付けが、商品の魅力を高めることを示しており、そこに図書館のビジネス支援の可能性を感じた。

インターネット検索では行き当たらないような情報が図書館にはある。ウィキペディアタウンによって、それらの情報を再生産し、世界中からアクセスできるプラットフォームに存在させることで、新たな観光資源を生み出し、地域活性化につなげることができるのではないかと、『ウィキペディアでまちおこしみんなでつくろう地域の百科事典』（紀伊國屋書店）のなかで著者の伊達氏は、以下のように述べている。

「誰かがやりたい！というときに、資料や会場や地域の人材など必要な情報や支援が受けられること、そういう体制が整い、あるいは整っていることを広く知らせ、頼ることができる仕組みの構築を行政には期待したい。」

その仕組みを県立図書館として構築したいと考えたのが、ウィキペディアタウン開催支援事業である。“地域ビジネスの芽をはぐくむ”この取り組みで、地域の産業やスモールビジネスを応援したい。

#### 4.2実施方法

具体的な方法としては、まず県立図書館で試験的な実施を行い、資料や会場の確保、環境整備、人材の派遣など、必要なものを把握し、ウィキペディアタウン開催の仕組みを構築する。初年度は経験が豊富なウィキペディアンを招くことも必須と考えている。

開催支援事業は、各地域のコミュニティなどの依頼を受けて実施する。実際の会場は市町村図書館を想定している。市町村図書館と連携することで、地域コミュニティと市町村図書館を結びつけ、市町村図書館の振興につなげたい。図書館の利用者が多様であるように、ウィキペディアタウンの参加者も、参加する世代は問わない。働く世代に限らず、高齢者や地域の高校生や大学生の参加も募り、土地の風土に魅力や可能性を感じてもらえる機会としたい。

#### 5.まとめ

本レポートでは、BL講習会で得たものを基礎として自館のサービスを振り返り、市町村図書館支援の視点をもって新たなサービスを提案した。ウィキペディアタウンの開催が必ずしもビジネスにつながるとは限らない。しかし、そこで生まれたビジネスの芽を誰かが育てたいと言い出したとき、支援機関につなぐことができる図書館となれるよう、産業支援機関との連携を広げることを目の前の課題として取り組みたい。

BL講習会では、サービスの基礎となるビジネス・レファレンスに役立つ知識を学ぶことができた。草の根を分けても探しだす意識で、レファレンス能力の向上に努めていきたい。また、いくつかの課題からは、個人の背景にあるものを想像し、図書館サービスと結びつけていく、ペルソナを用いた考え方を学び、PR講座やアンケート調査に関わる講座は、自館のサービスそのものをビジネスの視点で見つめ直す機会となった。大阪府立中之島図書館の事例を

受けて、地元の産業を知っている図書館員になりたいと心から思った。

最終日の講義、“図書館員の意識改革”では常世田理事長の言葉一つ一つが腑に落ちてきた。予算がなくても、人手がなくてもできることから実行していきたい。

## 謝辞

BL講習会でご指導いただいた講師の皆様、会場を提供しお世話いただいた大阪中央図書館の皆様、ゼミを担当いただいた田村俊作先生、土井しのぶ先生、ゼミの皆さんや講習会を通して出会ったすべての皆様、講習会に送り出し、課題の進み具合を気にかけてくださった上司や同僚に心より感謝申し上げます。

## 参考文献

---

i 島根県立図書館運営方針及び活動計画(第2次)

<https://www.library.pref.shimane.lg.jp/outline/unei-hoshin.html>

ii 図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会：“地域の情報ハブとしての図書館(課題解決型の図書館を目指して)”

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm)

iii 小林隆志, 講義資料“戦略的ビジネス支援サービスの展開”, 第23回ビジネスライブラリアン講習会

iv 土井しのぶ, 講義資料“【実践事例】広島市立中央図書館におけるビジネス支援サービス”, 第23回ビジネスライブラリアン講習会

v 手塚美希, 講義資料“【実践事例】「地域と人に寄り添う図書館 なぜ農業を応援するの?」”第23回ビジネスライブラリアン講習会

vi 余野桃子, 講義資料“ビジネスレファレンスの実務及びビジネスレファレンス演習”, 第23回ビジネスライブラリアン講習会

vii 竹内利明, 講義資料“図書館におけるビジネス支援サービス”, 第23回ビジネスライブラリアン講習会

viii 伊達深雪, 『ウィキペディアでまちおこし みんなでつくろう地域の百科事典』紀伊國屋書店, 2024